

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成28年12月20日(火) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 山形大学は、触覚による新たな情報伝達技術の研究開発を行います
2. 内閣府平成28年度次世代グローバルリーダー事業
「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」に学生が参加します
3. 「寒冷地の農業と林業の開発と管理」を学ぶ留学生を中国とモンゴルから受け入れます。
4. 新たな教育プログラムへの挑戦
～地域教育文化学部6年一貫のチャレンジプログラムを例に～

お知らせ

1. 平成29年度大学入試センター試験の取材について
2. 山形・ポーロニャ戦略的文化交流プロジェクト
シンポジウム「20世紀のイタリアに入った日本」の開催について
3. 第7回学長特別講演会シリーズ、文部科学省の竹内顧問を迎えて実施
4. 農学部研究シーズ説明会・ビジネスマッチの開催について
5. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催について
6. 入試直前相談会を開催します

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成29年1月17日(火)11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(12月20日)発表者

1. 山形大学は、触覚による新たな情報伝達技術の研究開発を行います

学術研究院 教授(有機材料科学・電子デバイス)

ときとう しずお
時 任 静 士

学術研究院 教授(MEMS、マイクロアクチュエータ)

みねた たかし
峯 田 貴

2. 内閣府平成 28 年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」に学生が参加します

工学部 3年

う だ きょうた
宇 田 恭 太

3. 「寒冷地の農業と林業の開発と管理」を学ぶ留学生を中国とモンゴルから受け入れます

学術研究院 准教授(森林水文学)

ラリー・ロペス

4. 新たな教育プログラムへの挑戦～地域教育文化学部6年一貫のチャレンジプログラムを例に～

学長

こやま きよひと
小 山 清 人

地域教育文化学部長

でぐち たけし
出 口 毅

平成28年12月20日
山形大学

山形大学は、触覚による新たな情報伝達技術の研究開発を行います

国立大学法人山形大学は、触覚による新たな情報伝達技術の高度化を目指した研究開発を進めるため、12月19日より日本放送協会放送技術研究所と手指に装着できる柔軟なデバイス^{注1)}の開発に関する研究相互協力を開始しました。本学と同研究所の研究相互協力は初めてとなります。

1. 研究相互協力の目的

山形大学では、柔軟性のあるセンサを用いた指と物体との間の力の分布の測定システムの構築や力の分布を検出する有機材料センサの開発などの研究を進めております。一方、日本放送協会放送技術研究所では、触覚に情報を伝える研究を行っており、この度の研究相互協力により、触覚による新たな情報伝達技術のさらなる高度化を目指します。

2. 研究開発の概要

指で触れることを介して立体の形状・硬さの情報を触力覚^{注2)}的に提示するシステムの高度化に向け、柔軟なセンサと計測システムを開発し、指で物体に触れるときの接触状態の解析に取り組みます。また、微細アクチュエータ^{注3)}による表面の微小動作の皮膚への作用の評価、触力覚提示システムの使用性と制御技術の探索に取り組みます。

3. 担当教員

山形大学 学術研究院

教授	時任 静士	(有機材料科学、電子デバイス)
教授	峯田 貴	(MEMS、マイクロアクチュエータ)
准教授	野々村美宗	(物理化学、コロイド界面化学)

注1) 柔軟なデバイス

薄くて柔らかいフィルム上に作製された電子機器（例えばセンサなど）。人の皮膚や関節などに直接貼り付けて使うこともできる。

注2) 触力覚

物体に触れた際の皮膚感覚や、物と接触した際の反動感覚のこと

注3) 微細アクチュエータ

電気エネルギー等を運動や変形に変換する機器・素子（例えばモーターもその一種）。マイクロマシン技術により微細な変換素子をチップやフィルム上にも形成できる。

(お問合せ先)

■研究に関すること

時任研究室	Tel. 0238-26-3725
峯田研究室	Tel. 0238-26-3192
野々村研究室	Tel. 0238-26-3164

■事務担当

米沢キャンパス事務部研究支援課	菅井
Tel. 0238-26-3004	
mail:koukenkyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp	

平成28年12月20日
山形大学

内閣府平成28年度次世代グローバルリーダー事業 「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」に学生が参加します。

「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」は、昭和63年度から実施されてきた「世界青年の船」事業の成果を継承する形で、内閣府が実施しているものです。世界各地から集まった外国青年と船内で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流等を通じて異文化対応力やコミュニケーション力を高め、リーダーシップ等の向上を図ります。

日本人約120名、外国人約120名が参加するこのプログラムに、工学部3年の宇田恭太さんが参加します。

■プログラムの概要

※詳しくは内閣府ホームページ (<http://www.cao.go.jp/koryu/>) をご覧ください。

- (1) 訪問国：ニュージーランド、フィジー共和国
- (2) 日程：平成29年1月23日(月)～3月3日(金)
- (3) 参加国：ブラジル連邦共和国、カナダ、コスタリカ共和国、エジプト・アラブ共和国、フィジー共和国、インド、ケニア共和国、ニュージーランド、トンガ、ウクライナ及び日本
- (4) 活動：船上では、いくつかのコーステーマに分かれて行う「コース・ディスカッション」、「リーダーシップ・セミナー」、「プロジェクト・マネジメント・セミナー」、各国事情を紹介し合う「ナショナル・プレゼンテーション」、その他の多国間交流活動等を行う。日本及び訪問国では、地元青年等との交流を行うとともに、関連施設の訪問等を行う。
- (6) 共通語：英語

■プログラム参加まで

本学では、このプログラムへの学生の参加は、今回で3年連続となります。プログラムへの応募は、大学が窓口になって取りまとめているものではなく、学生個人が応募する形式のものですが、過去に参加した学生が、後輩たちにも自分の後に続いてほしいとの思いから、自主的に説明会を実施するなど、先輩から後輩へ体験をつなぐ活動が結実したものです。

(お問合せ先)
総務部総務課広報室
電話 023-628-4008

平成28年12月20日
山形大学

「寒冷地域の農業と林業の開発と管理」を学ぶ留学生を 中国とモンゴルから受け入れます

農学部では、学部間交流の一環として、東北林業大学（中国）及びモンゴル生命科学大学（モンゴル）との共同研究、学生交流を進めています。

このたび、科学技術振興機構（JST）「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に採択され、両大学から留学生を受け入れます。留学生たちは、寒冷地域の農業と林業の開発と管理を学びます。

■受け入れプログラムの趣旨

近年、中国とモンゴルの産業・経済は急速に発展しています。両国の北部の農業と林業は寒冷地で行われていることから、山形大学・岩手大学の農場や演習林において、最先端技術に触れながら、寒冷地での農業と林業の取組みの経過を学び、両国における農林業の今後の展開を考えるプログラムを企画しました。

■受け入れ留学生数

- ・東北林業大学（中国） 5人
- ・モンゴル生命科学大学（モンゴル） 5人

■スケジュール概要

1月 6日	農学部到着
7～9日	演習林での実地調査、講義等（鶴岡市）
10～11日	岩手大学大学院連合農学研究科での研究交流等（盛岡市）
12日	新庄雪氷環境実験所視察（新庄市）
13日	鶴岡市内施設見学、農学部での共同シンポジウム（鶴岡市）
14～15日	離日

（お問合せ先）

学術研究院 准教授

ラリー・ロペス（森林水文学）

電話 0235-28-2961

平成28年12月20日
山形大学

新たな教育プログラムへの挑戦 ～地域教育文化学部6年一貫のチャレンジプログラムを例に～

山形大学では、平成29年4月に、5学部（人文学部・地域教育文化学部・理学部・工学部・農学部）及び2研究科（理工学研究科、医学系研究科）で改組を行います。

地域教育文化学部では、地域において「地域とつながる子どもの育成」と「文化的に豊かな人生」を支え、多様な人々・組織・団体をつないで地域の課題解決に取り組む人材を育成するため、1学科2コースへ再編します。2つのコース（「児童教育コース」及び「文化創生コース」）には、それぞれ、大学院進学者を対象とした6年一貫教育のチャレンジプログラムを設置し、学校教育や地域文化・芸術、スポーツの領域におけるプロフェッショナルな地域創生リーダーを育成します。

<チャレンジプログラムの特長>

- ・このプログラムは、学生が主体的に意欲を持って「チャレンジ」（挑戦）することを応援するプログラムです。したがって、6年間という期間で、自分の学びたい学問を、自分なりに挑戦することを重視します。
- ・このプログラムは、主体性を重視するため、入学後、自ら選択すればプログラムに入ることができます。大学院の入学料が免除されるとともに、学部と大学院のカリキュラムを貫くことにより、大学院教育への段差を感じることなく、6年間、学び続けることができるなどのメリットがあります。
- ・他のプログラムとは違い、入学直後から、自分の学びたい研究や学部の専門科目、さらに大学院の授業に参加することにより、高い志を持って、高いハードルへ何度でもチャレンジし、目標達成できるよう支援します。6年一貫チャレンジプログラムは、自分の将来を変えることができる、そんなプログラムです。

<新しい地域教育文化学部概要>

■児童教育コース

確かな学習指導・生徒指導の力を基礎として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域や家庭などと協力して、地域ぐるみで子どもの育ちを支える「チーム学校の一員としての教員」を養成します。

新たな特色として、大学院教育実践研究科に進学することを前提に、6年一貫教育を行い、より実践的な指導力・展開力を備えた教員を養成するチャレンジプログラムを設置します。

■文化創生コース

地域社会における文化的な豊かさの保持と健やかで安心な生活の維持に寄与する「地域課題解決のスペシャリスト」を養成します。

新たな特色として、音楽芸術・造形芸術・スポーツ科学の分野においては、大学院地域教育文化研究科文化創造専攻に進学することを前提に、6年一貫教育を行い、ス

キル向上のみならず、豊かな地域の創生に貢献するための専門的知識を養い、地域全体の発展向上をリードする人材を養成するチャレンジプログラムを設置します。

(お問合せ先)

地域教育文化学部事務室

電話 023-628-4304

設置の趣旨・必要性

- ・地域において「地域とつながる子どもの育成」と「文化的に豊かな人生」を支え、多様な人々・組織・団体をつないで地域の課題解決に取り組む人材が必要である。
- ・1学科2コースに再編し、人材養成機能を集約・重点化する。
- ・各コースに複数のプログラムを導入し、実践力を高める教育を行う。

地域教育文化学部 (入学定員：175名) が養成する人材像及び特色

児童教育コース (80名)

確かな学習指導・生徒指導の力を基礎として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、地域や家庭などと協力して、地域ぐるみで子どもの育ちを支える「**チーム学校の一員としての教員**」を養成します。

取得できる主な資格

●小学校教諭一種免許状 (必須) ●中学校教諭一種免許状 (国・社・数・理・英) ●高等学校教諭一種免許状 (国・地歴・数・理・英) ●幼稚園教諭一種免許状 ●特別支援学校教諭一種免許状

小学校教育プログラム

卒業要件として小学校教諭一種免許状を取得します。さらに卒業要件とはしませんが、中学校教諭一種免許状 (国・社・数・理・英)、高等学校教諭一種免許状 (国・地歴・数・理・英)、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状のいずれかを取得できるプログラムです。

チャレンジプログラム

—教職大学院進学者を対象とした6年一貫教育—
教育実践研究科に進学することを前提に、6年一貫教育を行い、より実践的な指導力・展開力を備えた教員を養成するプログラムです。取得する一種免許状に応じて各校種の専修免許状を取得できます。

文化創生コース (95名)

地域社会における文化的な豊かさの保持と健やかで安心な生活の維持に寄与する「**地域課題解決のスペシャリスト**」を養成します。

取得できる主な資格

●中学校教諭一種免許状 (音・美・保体) ●高等学校教諭一種免許状 (音・美・保体) ●認定心理士申請資格

心身健康支援プログラム※

地域の健康を「こころ」と「からだ (栄養と運動)」の側面から科学的に分析し、支援できる人材を養成するプログラムです。

芸術文化創生プログラム※

芸術的なスキルの実践を通して、地域住民が文化的に豊かな生活を構築するために貢献できる人材を養成するプログラムです。

※2つのプログラムを横断的に履修することも可能です。

チャレンジプログラム

(音楽芸術・造形芸術・スポーツ科学)
—大学院進学者を対象とした6年一貫教育—
地域教育文化研究科文化創造専攻に進学することを前提に、6年一貫教育を行い、スキル向上のみならず、豊かな地域の創生に貢献するための専門的知識を養い、地域全体の発展向上をリードする人材を養成するプログラムです。

チャレンジ・プログラムの設置(学部教育と大学院教育の連携による6年一貫教育)

- 学校を取り巻く環境の変化(大量退職・大量採用、教育課題の多様化・複雑化)への対応
- 地域創生でリーダーとなりうる教員の養成

チャレンジ・プログラム

教育実践
研究科

専門職大学院
○ 新しい学校づくりの有力な一員となりうる実践的指導力を持つ新人教員の育成

地域教育文化学部
児童教育コース

- 地域創生において文化・芸術、スポーツを地域資源として戦略的に活用
- 地域創生でリーダーとなりうる音楽・芸術・スポーツに精通した人材の養成

チャレンジ・プログラム

地域教育
文化研究科

文化創造専攻
○ 音楽芸術、造形芸術、スポーツ科学の3分野で、企画・運営・マネジメント能力を養い、地域の芸術文化やスポーツの発展・振興に寄与する人材を養成

地域教育文化学部
文化創生コース

チャレンジ・プログラムの履修方法

修了後のイメージ

学校教育や地域文化・芸術、スポーツの領域におけるプロフェッショナルな地域創生リーダー

修士課程修了

6年一貫教育

認定制度

基盤教育

・プログラム履修者に対しては学部4年次と修士課程を含めた3年間で、PBL・フィールドワーク・特別演習／プレゼンテーションなどをフレキシブルに履修し、専門家としての実践力を涵養する。学部段階で大学院の授業の聴講可能。

・確かな実践力を備えた人材の輩出を目指し、学士課程3年間の学修成果(基盤教育・専門教育)について認定する。

・3年間の基盤共通教育の中では、学生の多様化に対応するため、専門コースをまたぐ履修や履修順序の変更を容易にして一貫教育後半の3年間の充実した活動につなげる。

教職実践プレゼンテーション
特別研究(修了認定)

[大学院教育]

学士課程卒業相当

研究計画等提出
大学院履修資格認定

[専門教育]

[基盤教育]

大学院修士課程教育

修士課程

チャレンジ・プログラム

フレキシブルに履修

教育実践研究科

※学部4年次に前後期選択科目から各2単位履修可能

教職実践基礎プレゼンテーション(通年4単位)

地域教育文化研究科
文化創造専攻

※学部4年次に開講科目から前後期各2単位履修可能

特別研究基礎プレゼンテーション(通年4単位)

[チャレンジ・プログラム「卒業研究」科目]

4年次

3年次

2年次

1年次

後期:学習開発デザインセミナーⅡ(特別演習1単位)

前期:学習開発デザインセミナーⅠ(特別演習1単位)

後期:学習開発フィールドワーク(実習2単位)

前期:教職大学院への招待(講義2単位)

地域文化デザインセミナーⅡ(特別演習1単位)

地域文化デザインセミナーⅠ(特別演習1単位)

文化創造フィールドワーク(実習2単位)

文化創造への招待(講義2単位)

【児童教育コース】

【文化創生コース】

入学直後:オリエンテーション、プログラム履修者決定

平成28年12月20日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 平成29年度大学入試センター試験の取材について

大学入試センター試験の円滑な実施にご協力をお願いします。

2. 山形・ポローニャ戦略的文化交流プロジェクト シンポジウム「20世紀イタリアに入った日本」の開催について

イタリアの方々「日本」に抱いているイメージをイタリア人の日本文化研究者とともに話し合うことによって、山形から海外に向けた情報発信の在り方について考えるシンポジウムを開催します

日時：2017年1月6日（金） 13:30～15:30

会場：山形美術館3階（山形市大手町1-63）

3. 第7回学長特別講演会シリーズ、文部科学省の竹内顧問を迎えて実施

山形大学の3つの使命「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」を発信するため、昨年度から「山形から世界へ」をテーマに学長特別講演会を開催しています。7回目となる今回は、文部科学省顧問 竹内佐和子氏を講師に迎え、講演と学長との対談を行います。

日時：2017年1月17日（火） 16:30～18:00

会場：未定

4. 農学部研究シーズ説明会・ビジネスマッチの開催について

日時：2017年1月24日（火） 13:00～14:10（研究シーズ説明会）

14:15～16:20（ビジネスマッチ）※要事前予約

会場：農学部会議室

5. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催について

「大学コンソーシアムやまがた」では、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。

1月～2月は、「私の見た『創造都市』ポローニャ」、「放送大学山形学習センター教養講座」の2つのシリーズを展開します。

期日：それぞれのチラシをご覧ください。

時間：18:30～19:30

対象：高校生・大学生・一般の方々どなたでもご参加いただけます（定員50名）。

場所：ゆうキャンパス・ステーション

平成28年12月20日
山形大学

平成29年度大学入試センター試験の取材について
－ 大学入試センター試験の円滑な実施にご協力をお願いします。－

- ◇ 大学入試センター試験の取材につきましては、別添「平成29年度大学入試センター試験の取材について」のとおりとしますので、取材される場合は所定の期限までに各試験場担当者に連絡願います。
- ◇ なお、小白川地区試験場での撮影取材に当たっては、次のことに特にご留意願います。
 - 1 1月14日（土）9時5分からの試験室撮影取材をされる場合は、理学部1号館1階ホールに8時55分（時間厳守）までにお集まり願います。
 - 2 車で入構される場合は、大学の南門から入り、所定の報道関係者駐車場（別紙小白川地区試験場駐車場配置図を参照してください。）に駐車してください。
なお、大学正門は受験生入構のため、車等の乗り入れは禁止となっております。

（お問い合わせ先）
インフォメーション・マガジン外部入試課
前田・阿部
電話 023(628)4141

平成29年度大学入試センター試験の取材について

－ 大学入試センター試験の円滑な実施にご協力をお願いします。－

山形大学

1 報道関係の窓口

報道関係者への対応は、本学の試験実施本部の広報担当者が行いますので、試験に関する問い合わせ等については、エンロールメント・マネジメント部入試課長（☎023-628-4140(通)）へお願いします。

2 試験場での取材

試験場での取材は、あらかじめ許可を得てください。

取材の際は、各社記者証を提示し、腕章等で報道関係者であることを明示してください。

3 試験室内での撮影

試験室内での撮影は、1月14日（土）のみとし、試験場責任者の指定する職員の立会いのもとで行ってください。

(1) 大学入試センター試験の撮影については、1月12日（木）正午（厳守）までに各試験場責任者の了承を得てください。

・小白川地区試験場責任者 … 小白川キャンパス長

（連絡先：小白川キャンパス事務部教務課学務担当☎023-628-4405(通)）

・工学部試験場責任者 … 米沢キャンパス長

（連絡先：米沢キャンパス事務部学務課入試担当☎0238-26-3013(通)）

・県立鶴岡中央高等学校試験場責任者 … 鶴岡キャンパス長

（連絡先：鶴岡キャンパス事務室学務担当☎0235-28-2808(通)）

・県立新庄神室産業高等学校試験場責任者 … 山形県立米沢栄養大学学生部長

（連絡先：山形県立米沢栄養大学教務学生課長☎0238-93-2931(通)）

(2) 1月14日（土）は、午前8時55分まで報道関係者控室等に集合してください。

(3) 撮影は、試験場責任者が指定した試験室でのみ許可することとします。

(4) 撮影時間は、午前9時5分から10分以内とします。

必ず午前9時15分には退室してください。

(5) 撮影に当たっては、受験者に動揺を与えないよう注意するとともに、試験場責任者の指定する職員の指示に従ってください。

(6) 受験者が特定できるような撮影は、絶対に避けてください。

(7) 本学が指定する試験室以外の「試験室」及び「試験室のある建物」への立ち入りはできません。

4 障害等のある受験者の取材

障害等のある受験者の取材については、あらかじめ本人の了解を得る必要がありますので、試験場責任者の指示に従ってください。

5 不測の事態発生時の取材について

不測の事態が発生して、試験が中止された場合などにおいても、必ず試験場責任者の指定する職員の指示に従ってください。

- 6 当日の試験実施状況(※)は、以下の時間にエンロールメント・マネジメント部入試課から報道各社へFAX送信予定ですので、円滑な試験実施のため、試験時間中の問い合わせはご遠慮ください。
発表時間はあくまでも予定ですので、あらかじめご了承ください。

区 分	1月14日(土)				1月15日(日)			
科 目	地理歴史, 公民	国語	外国語 (筆記)	英語 (リスニング)	理科①	数学①	数学②	理科②
発表予定 時間	13:20 以降	16:10 以降		18:20 以降	13:20 以降	16:05 以降		17:55 以降

(※) 志願者数, 欠席した者の人数, 受験した者の人数をお知らせします。

7 問題冊子及び科目別正解の発表

- (1) 問題冊子は、各試験時間終了後に各試験場で配付します。
- (2) 正解及び配点は、試験終了後、大学入試センターにおいて、大学入試センターのホームページを通じて発表します。

山形・イタリア戦略的文化交流プロジェクト ポルティコの街ボローニャに学ぶ

シンポジウム 20世紀 イタリア

申込不要
聴講無料

主催：山形文化遺産活用事業実行委員会
チェントロ・ポルティコ研究会
後援：山形市／山形大学

に入った日本

2017年 1月 6日 (金)

13:30~15:30 (開場 13:00)

山形美術館 3階

山形市大手町1-63 tel. 023-622-3090

徒歩 JR山形駅(東口)から徒歩15分
山形自動車道「山形蔵王IC」から約15分
※山形美術館北側に無料駐車場
※美術館前の山形市大手町駐車場は有料



内容

報告「ポロ-ニャと山形の交流 2012~16」

13:30~13:45 山本陽史 山形大学学術研究院教授

講演 13:45~14:30

「20世紀イタリアに入った日本」

アレックスandro・グイディ

ポロ-ニャ東洋美術研究所所長

講演および
ディスカッションは
日本語で行います



パネルディスカッション 14:45~15:30



アレックスandro・グイディ
ポロ-ニャ東洋美術研究所所長



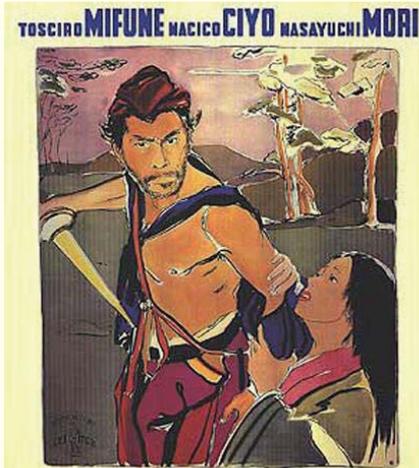
阿部宏慈
山形大学理事・副学長



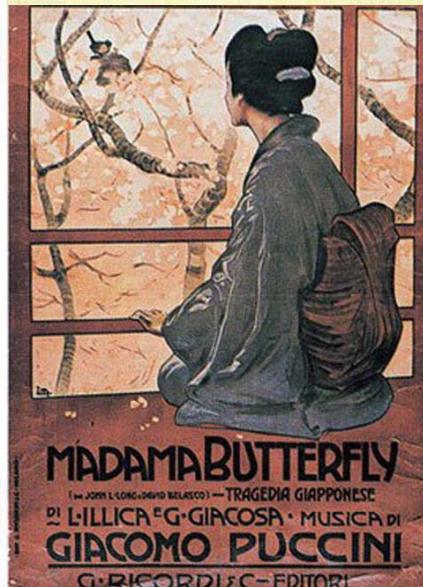
山本陽史
山形大学学術研究院教授



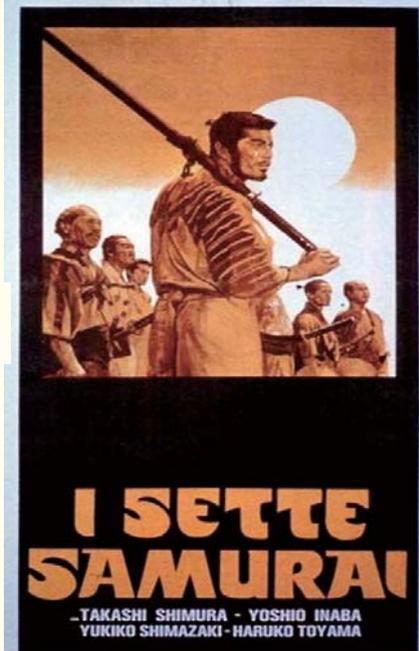
佐藤琴
山形大学学術研究院准教授



RASCIOMON
F. PREMIO ASSOLUTO - LEONE DI SAN MARCO - AL FESTIVAL INTERNAZIONALE DI VENEZIA 1951
F. PREMIO DELLA CRITICA ITALIANA AL FESTIVAL INTERNAZIONALE DI VENEZIA 1951
F. PREMIO AMERIGIO DEL "NATIONAL BOARD OF REVIEW OF MOVIE PICTURES" PER IL MIGLIORE FILM STRANIERO
PRODUZIONE - DAIEMI ITALY FILM TOKYO REGIA DI ACHIRA CUROSAWA



MADAMA BUTTERFLY
IN UN FILM DIRETTO DA
AKIRA KUROSAWA



I SETTE SAMURAI
- TAKASHI SHIMURA - YOSHIO INABA
YUKIKO SHIMAZAKI - HARUKO TOYAMA

お問合せ 山形文化遺産活用事業実行委員会 (事務局 山形大学附属博物館 受付時間 平日 9:30 ~ 17:00)

tel. 023-628-4930 mail. hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成28年12月20日
山形大学

第7回学長特別講演会シリーズ、文部科学省の竹内顧問を迎えて実施

山形大学の3つの使命「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」を発信するため、昨年度から「山形から世界へ」をテーマに学長特別講演会をシリーズで開催しています。7回目となる今回は、文部科学省顧問 竹内佐和子氏を講師に迎え、講演と学長との対談を行います。

山形大学では「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命としております。この3つの使命について国内外の様々な分野で活躍されている方と意見を交わすことによって、学内教職員はもとより、学生諸君や地域の皆さまと一緒に将来の山形大学の姿についての共通理解を深めたいと考えております。

日時：平成29年1月17日（火）16：30～18：00

会場：小白川キャンパス 理学部S401教室（予定）

対象：学生、教職員、高校生、一般市民

【講師プロフィール】

竹内 佐和子(たけうち さわこ) 文部科学省顧問、前パリ日本文化会館館長、

工学博士（東京大学）、経済学博士、裏千家茶道教授。

1975年早稲田大学法学部卒。フランスの応用数理経済研究所でレヴィ＝ストロースと多文化主義について研究、その後理工系グランゼコールのポンゼショセ校の国際ビジネス大学院副所長となる。帰国後、東京大学大学院工学系研究科助教授、東洋大学経済学部教授、京都大学工学研究科客員教授を歴任。元外務省参与・大使として文化外交に携わり、世界銀行では都市政策、工芸技術への先端技術活用専門家として活躍した経験を持つ。2011-2016までパリ日本文化会館の館長として日本文化の海外発信に邁進。その功績によりフランス国家功労と芸術文化勲章シュヴァリエの二つの勲章を叙勲。

※詳細が決まり次第ホームページでお知らせします。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/president/lecture/>

(お問合せ先)

総務部総務課広報室

電話 023-628-4008

研究シーズ 説明会・ ビジネスマッチ

平成29年1月24日(火)

【第1部 研究シーズ説明会】

農学部の研究シーズについて教員がわかりやすく説明します。
また、コーディネーターが産学官連携の具体的事例についてお話しします。

時間: 13:00~14:10

会場: 農学部会議室(1号館2階)

【第2部 ビジネスマッチ】

教員との面談形式によりマッチングの可能性を探ります。

面談時間スケジュール ※要事前予約

1回目	2回目	3回目	4回目
14:15~14:50	14:55~15:20	15:25~15:50	15:55~16:20

※なお、上記日時以外でも、面談は可能です。お気軽にご相談ください。

研究シーズとは？

シーズとは seeds(種)のことで、“研究シーズ”とは新たな産業を生み出す種や芽となる研究、事業化が見込まれる開発研究のことを言います。農学部では日頃の研究成果を地域社会に発信するために『農学部研究シーズ集』を作成しておりますが、当日はその内容をよりわかりやすく教員が説明いたします。農学部で行っている研究内容にご興味のある方、ビジネスパートナーとして相談できる教員を知りたい、という方々におかれましては、是非この機会をご利用ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先: 山形大学農学部企画広報室
TEL0235-28-2910 FAX0235-28-2836
E-mail: nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

日 時：平成 29 年 1 月 24 日（火）午後 1:00 開始

会 場：山形大学農学部（鶴岡市若葉町 1-23）

参加費：無料

参加ご希望の方は下記必要事項を FAX、E-mail または、お電話にてご連絡ください。

電話・FAX でお申し込みの方

TEL0235-28-2910

FAX0235-28-2836

メールでお申し込みの方

nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※ メールでのお申し込みの際には、件名に「研究シーズ説明会申し込み」と記載願います。

参加申込書

申込締切／平成 29 年 1 月 17 日（火）

事業所等	
住所	〒
TEL／FAX	
E-mail	
ご参加者名（役職名）	

第 1 部 研究シーズ説明会

参加します

参加しません

第 2 部 ビジネスマッチ

参加します

参加しません

※ ビジネスマッチに参加の方はご相談内容または面談希望教員などを記載願います。折り返し担当者より連絡を差し上げ、面談時間を調整させていただきます。（シーズ説明会を聞いてからの面談お申し込みも可能ですが、事前予約優先となりますことをご了承願います。）

やまがた夜話

私の見た「創造都市」ボローニャ

ヨーロッパ最古の大学を持ち、ものづくり、食、映画、音楽などの分野で独特の存在感を発揮し、井上ひさしさんが『ボローニャ紀行』で絶賛した街イタリア・ボローニャ市。ユネスコの「創造都市」ネットワークの中核都市でもあります。いま山形市は映画部門でネットワークへの加盟を目指しています。この機会にボローニャという街について講師の交流経験からお話しし、創造都市運動の意義を考えます。



山形市長 佐藤孝弘氏
1月11日ゲスト

平成29年

1月11日(水) 創造都市って何だろう？

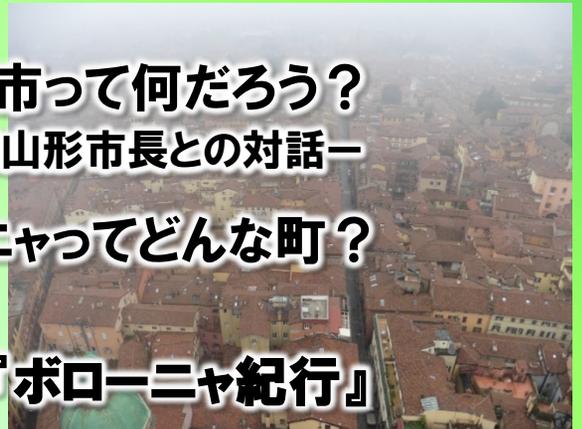
18:30 ~ 19:30 - 佐藤山形市長との対話 -

1月25日(水) ボローニャってどんな町？

18:30 ~ 19:30

2月 1日(水) 深読み『ボローニャ紀行』

18:30 ~ 19:30



講師 山本 陽史 氏

山形大学学術研究院教授
(基盤教育担当)



会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらさきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民
定員: 50名 **入場無料**

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax, 郵送、メール等でお
申し込みください。



主催

大学コンソーシアムやまがた



大学コンソーシアムやまがた

お申込み・
お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階
TEL: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820
E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

やまがた夜話

放送大学

放送大学山形学習センター教養講座



1月18日(水)「蕪村はなぜ奥の細道図屏風を描いたのか？」

18:30~19:30 講師：山本 陽史 氏 (放送大学客員教員／山形大学学術研究院教授)
○与謝蕪村「奥の細道図屏風」(山形美術館所蔵)成立の背景となった江戸時代中期の芭蕉ブームを点描します。

2月 2日(木)「発酵を化学する」

18:30~19:30 講師：栗山 恭直 氏 (放送大学客員教員／山形大学理学部教授)
○身の回りの発酵を化学から見直します。今後の持続可能な社会で重要な役割を果たすことが期待されています。

2月 8日(水)「最上川から山形を学ぶ」

18:30~19:30 講師：下平 裕之 氏 (放送大学客員教員／山形大学人文学部教授)
○この講座では、最上川がどのように山形の社会経済に影響を与えたか、そして現在それがどのように活用されているかを紹介します。

2月 9日(木)「自閉症スペクトラムの理解～あかし研究から～」

18:30~19:30 講師：森 直樹 氏 (放送大学客員教員／山形県立保健医療大学准教授)
○自閉症スペクトラム症についての基本的理解と支援、そして当事者の観点から特性を解説します。

2月15日(水)「家族ライフサイクル -動詞としての家族-」

18:30~19:30 講師：佐藤 宏平 氏 (放送大学客員教員／山形大学地域教育文化学部准教授)
○人間同様、家族にも発達段階があります。“変わりながら、変わらず存在し続ける家族”について、家族ライフサイクルの観点からお話します。

2月23日(木)「ことばの音と文字に親しむ」

18:30~19:30 講師：富田 かおる 氏 (放送大学客員教員／山形大学人文学部教授)
○顔を上げ、回りを見渡せば、様々な文字が目に入り、色々な音が聞こえて来ます。ここに外国語も仲間入り。

3月 1日(水)「ワインで探る大気中CO₂」

18:30~19:30 講師：櫻井 敬久 氏 (放送大学山形学習センター所長／山形大学名誉教授)
○ワインのヴァンテージは大気中の宇宙線や核実験の痕跡(炭素14)を探るツールになります。

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax, 郵送、メール等でお
申し込みください。

定員：50名

入場無料

主催

大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



大学コンソーシアムやまがた





FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前々日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。
	<input type="checkbox"/> 平成29年 1月18日(水) 講師: 山本 陽史 氏
	<input type="checkbox"/> 平成29年 2月 2日(木) 講師: 栗山 恭直 氏
	<input type="checkbox"/> 平成29年 2月 8日(水) 講師: 下平 裕之 氏
	<input type="checkbox"/> 平成29年 2月 9日(木) 講師: 森 直樹 氏
	<input type="checkbox"/> 平成29年 2月15日(水) 講師: 佐藤 宏平 氏
	<input type="checkbox"/> 平成29年 2月23日(木) 講師: 富田かおる 氏
	<input type="checkbox"/> 平成29年 3月 1日(水) 講師: 櫻井 敬久 氏
住 所	〒
氏 名	
連絡先	TEL
	E-mail
所 属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成28年12月20日
山形大学

入試直前相談会を開催します（1/21、1/22）

山形大学の受験を考えるにあたり、学べる内容や入学後の生活環境、お金に関する事など、各学部の教職員が個別に相談に応じる入試直前相談会を開催いたします。

■ 実施内容

大学概要説明、個別相談コーナー、資料（願書等）配付コーナー

※全学部の入試担当教職員が参加し、個別に相談に応じます。

■ 仙台会場

日時：平成29年1月21日（土）13：30～16：00 <入退室自由>

- ・大学概要説明（13：30～13：55）
- ・各学部個別相談コーナー（13：30～16：00）
- ・資料（願書等）配付コーナー（13：30～16：00）

会場：仙台ガーデンパレス2階 鳳凰（〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-5）

■ 山形会場

日時：平成29年1月22日（日）13：00～15：00<入退室自由>

- ・大学概要説明（13：00～13：25）
- ・各学部個別相談コーナー（13：30～16：00）
- ・資料（願書等）配付コーナー（13：30～16：00）

会場：山形大学小白川キャンパス理学部11～14番講義室

■ 事前申込：不要

※詳細は、ホームページをご覧ください。

http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/information/entrance/20161215_01/

（お問合せ先）

エンロールメント・マネジメント部EM企画課

電話：023-628-4062

E-mail：enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp